

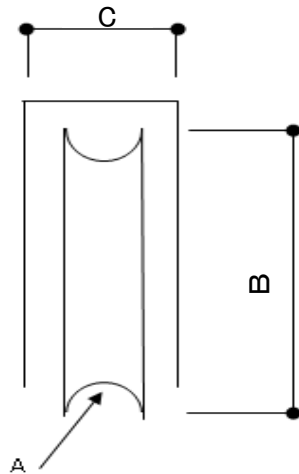
1. 対象製品

アルミ・樹脂複合引き違いサッシ用戸車

略称：CjK 戸車

2. 標準(共通)化の部位

アルミ・樹脂複合引き違いサッシ用戸車の標準(共通)化の部位を図1に示す。



A : タイヤ溝のR
B : 戸車高さ
C :ハウジング幅

図1－標準(共通)化の部位

3. 寸法・形状

アルミ・樹脂複合引き違いサッシ用戸車寸法は、表1の通りとする。

表1－各部位の寸法

単位：mm

項目	寸法
A : タイヤ溝のR	R2.0 R3.5 R5.0
B : 戸車高さ	65, 60, 50, 45, 40, 35, 30, 25, 20
C : ハウジング幅	16.5以下

各寸法の基準の範囲を表2に示す。

表2－基準の範囲

単位：mm

項目	基準の範囲
A : タイヤ溝のR	+0, -0.5
B : 戸車高さ	±2.0
C : ハウジング幅	-

4. 表示方法

印刷物・電子媒体などに、当該商品が長期使用対応部材であることを表示する。
または、“Cjk”マークを表示する。

5. 特記事項

5.1 対象範囲

戸車の種類は、溝戸車とする。(JIS A 5545に規程する)

5.2 タイヤ溝 Rとサッシレールの先端 Rの関係

タイヤ溝 R(A寸法)は サッシレールの先端 Rとの組合せがあり、
表3-タイヤ溝Rとレール先端R との関係を記載する。

表3-タイヤ溝Rとレール先端R の関係

単位：mm

タイヤ溝R (A寸法)	R 5. 0	R 3. 5	R 2. 0
レール先端R	R 4	R 3	R 1. 7

6. 解説

6.1 戸車にかかる荷重と戸車高さについて

JIS A 5545:2011”サッシ用金物”にて ”戸車の試験荷重及び往復回数” が規定されており、表4-試験荷重及び往復回数 を記載する。

表4-試験荷重及び往復回数

戸車2個にかかる 試験荷重 N	試験荷重 の許容差 %	往復回数	外形寸法 (戸車高さ) mm
		万回	
150	+5 0	1	20未満
200		5	20以上 30未満
400		10	30以上 80以下
590			
1100			

JIS A 5545:2011では、戸車の走行性として、表4に準拠した試験にて戸車が円滑に回転し、
使用上支障のある横振れ及び縦振れがあってはならない。と規定している。
また、戸車の強さとしての規定もあり、戸車選定の際は専門業者に確認が必要である。

注記 一般の方が建て付けを行うことは危険が大きく、実際に苦情として発生している
ことより、PL上の免責も配慮し解説6.1を記載した。

7. 共通事項

7.1 寸法について

・寸法は基準値を示し、公差・許容差を表すものではない。

7.2 交換について

・交換については、専門知識を有する者が行うことを推奨する。

注記：専門知識を有する者とは：専門的知識、技術、経験を有する者である。

8. 改訂履歴

8.1 2014年3月20日改訂

- ・ ”7. 共通事項” を基準書記載内容改訂により記載
- ・ ”5. 特記事項” 掲載内容の一部を ”6. 解説” に移動
- ・ ”許容差” を ”基準の範囲” に改訂
- ・ 標準化の部位に規定していたレールのRを削除し特記事項に記載
- ・ 符号、書式の統一

8.2 2016年4月28日改訂

- ・ 対象製品名称、略称見直しによる改訂